

スクールインターンシップ研修 体験レポート

理工学部 環境システム学科 3年次生

(スクールインターンシップ 研修時)

恐らく、教師の道を目指したいと言う人が多いと思います。もしくは教師になるかどうかはまだ分からない、と言う人も中には居るでしょう。私は理科の教師を目指して教職課程をとっています。3年次になり、翌年は教育実習をひかえていましたが、そんな中で教育という現場をたったの数週間で、自分が教師という立場で教壇に立っているその姿を想像できるのか、そう思いました。また、私学出身ということから公立の中学高校の学生の生活がどうあるのか、学校の先生と生徒の関係・距離感はどう感じなのか、習熟度や学習の進め方はどんなものなのか、世間一般にはブラック職と言われているがそれは現場ではどう思っているのか、など次々と疑問が湧いてきたことも何度もありました。これを知るには数週間では少な過ぎる、そう思いスクールインターンを志望しました。

スクールインターンでは、教師の一日に密着し職員室での取り組みまでを見ていくことができました。目的としては、学校現場を体感経験していくことを主とし、同時に生徒感や学習においてみていくことで多角的に「自分であればどのように動いていくことができるのか」について考えることができるようになるということでした。そんな中での活動としては、見学・机間巡視・質問受けを含んだ授業補助、安全管理や指導が主だった部活動補助、班活動見学やプリント配布などの終礼参加であり、積極的に動くことで様々な経験をさせていただくこともできました。そんな中で意識していたことは、「良いもの（指導教員の技）を盗む」→「自分なら…を考える」→「生徒の姿勢を観察」→「抑えはどうか」→「安全管理」をサイクルしていくことで、状況に応じた活動ができるようにしていくというものでした。時には担当教員の方からのフィードバックをいただくこともでき貴重な経験になったと考えています。こういった活動を通じて教室の中では「一人を見て全員を見る」つまり一人の生徒の状態から全体の状況を把握していく、「自分なりの授業構成をイメージ」していき、生徒や教員の「学校生活に対する思い」を知るということができたと思います。それに対して、「生徒と教師の距離感」の取り方の難しさを思い知る機会にもなりました。やはり年が近いことから友人か教師かの間で生徒も戸惑うのであろうと考え今後はどのようにそんな違和感を感じさせることなく接することができるかを考えていきたいと思っています。

最後になりますが、スクールインターンは長期・短期どちらでも意欲さえあれば学びたいことが「多く学べる機会」であり「自分の教師像」を探せる機会です。もし、教育実習に行くことに不安を感じていたり、そもそも教師になるかを迷っていたりしている人は、一度考えてみてはいかがでしょうか。